

山浦地区 健康長寿のふるさと 「癒やされ支え合う」 まちづくり計画



山浦地区町づくり推進協議会
(平成29年10月)

— 目 次 —

序章 まえがき

第1章 山浦地区の現状

1. 山浦地区の概況
2. 山浦地区と小学校の歴史
3. 山浦地区まちづくり推進協議会活動

第2章 地域の課題や要望

1. 住民アンケートの結果と分析

第3章 まちづくり推進協議会の基本方針・活動計画

1. 基本方針の目的
2. 基本方針の概要
3. 活動計画

第4章 まちづくり計画の実現を目指して

1. 基本目標
2. 組織体制

参考資料

1. 山浦小学校跡地改修計画
2. 小学校周辺整備計画
3. 山浦地区地域策定アンケート調査報告書

序章 まえがき

山浦地区は杵築市の西側に位置し、のどかな田園風景が広がる豊かな自然に囲まれた地域です。

昭和30年代には人口2,000人を超え、農業を中心に地域の人たちが日々の暮らしを営んでいました。高度経済成長期に入り、若者たちが地元を離れゆるやかに人口が減少することとなり、近年では急速に少子高齢化・過疎化が進み、家族や集落では解決できない様々な問題が生じてきました。

ある程度は予測されていたことではありましたが、これからの山浦地区を維持していくためには、新たな地域づくりへの転換が求められてきました。

このような地域の状況の中、杵築市が提唱する「協働のまちづくり」の指針に則り住民・地域・行政がそれぞれに連携を取りながら、山浦地区「まちづくり計画」を策定することとなりました。

また地域の人たちが抱える共通の課題を解決し、人と人とを結びつける拠点施設の必要性を感じ、平成28年9月に山浦小学校跡地検討委員会を立ち上げました。

本検討委員会では、まちづくりに対する認識を深め、拠点施設の必要性や、地域づくりの具体的手段を模索するために、先進地視察や外部から専門家を招いて研修を重ねてきました。また地区の皆さんに協力をお願いし、「まちづくり計画書」の策定に向けたアンケート調査や地域の皆さんへ聞き取り調査を実施しました。

これらの調査結果を分析し問題・課題を洗い出し、活性化対策を検討し、まちづくりの基本方針や活動計画を策定しました。

今後は本計画に基づき、これからも安心・安全に暮らしていける、まちづくりを展開していきます。

平成29年10月
山浦地区まちづくり推進協議会
会長 阿部 信 秀

第1章 山浦地区の現状

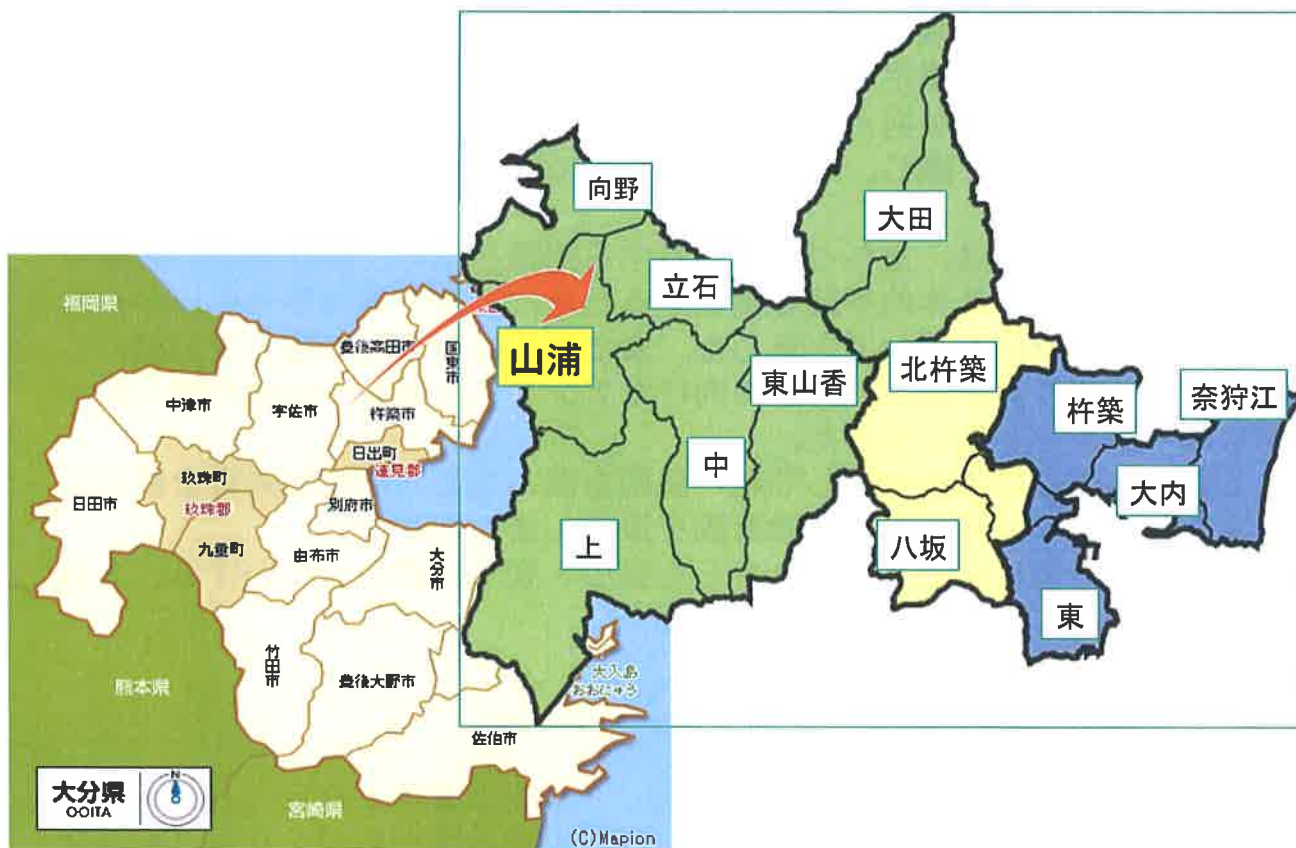
1. 山浦地区の概況

山浦地区は、杵築市の北西に位置し、宇佐市安心院、立石、上地区に接しています。

面積が約19.87km²の人口は、平成28年3月31日現在約575人（男258人、女317人）の4つの集落（山浦北部・山浦西部・山浦南部・山浦東部）により形成されています。

（4つの集落前は、19地区の集落から形成されていました）

高齢者（65歳以上）が、約281人（男113人・女168人）の約49%を占めています。更に、後期高齢者（75歳以上）も172人（男55人・女117人）の約30%を占めている地区です。



資料: 杵築市市民課より

2. 山浦地区と小学校の歴史

山浦地区の歴史は、明治5年の「山香郷各村の学区」によると、「速見郡第二大区」に属し、明治22年に「山浦村」「吉野渡村」が「山浦村」に統合され、昭和30年の「第二次町村合併」で「山香町」が誕生し、「山浦村」から「山浦」と呼ばれるようになったとされています。

山浦地区の北端には、杵築市の最高峰である「雲ヶ岳」（653メートル）がそびえ、山林が広がっています。

また、当地区は降雨量が少なく地形的に河川が短いため、水田農業を営むのに必要不可欠な水の確保が困難でした。先人たちは、多くのため池を作り、周辺にクヌギ林とつないで、限られた水を有効に活用する農林水産循環システムを作り上げ、現在の山蔵川の源流として継承をしています。

その山蔵川の間の本篠には、大分県指定有形文化財の板碑があります。

高さ2.6メートルの「建武板碑」が立ち、建武元年（1334年）の銘が刻まれています。

その南東にあっては、大村山（419メートル）がおだやかな山容を見せています。この付近一帯は、天文13年（1534年）周防（山口県）から攻め入って来た大内軍と、これを迎え討った府内（大分市）の大友軍との間に激しい戦闘がくりひろげられた古戦場です。また、大村山には、この戦いで戦死した大友軍の将吉弘氏直や、寒田三河守らの墓があります。

この近くにある、善神王社前には、大内軍の将杉長門守の墓と伝えられる巨大な「はなぐり石」が立っています。更に、下山の杉の造林の中に、高さ約2メートルの角柱碑があり、貞治5年（1366年）の年号と「覚位覚阿為逆修」の文字が読み取れ、町指定有形文化財になっています。

この山あいから県道沿いに少し行くと、「楠ため池」が一望でき、周囲4km、面積7ha、総貯水量20万トンを誇る山香町で最大のため池で、立石川流域の水田約67haに水を供給しています。

更に、県道沿いの長田バス停から南に約150メートル入ると「金亀山泉福寺跡」があります。ここには、由来ある古い寺で、境内に慶応3年（1351年）の銘が刻し立派な国東塔があります。大分県指定有形文化財でもあります。

その西の外れに国指定の重要民俗文化財として「石風呂」があります。その他、指定文化財も多く杵築市の「散策マップ」や「健康ウォーキングマップ」にも掲載され、各所イベント等が開催されています。

そして、山浦小学校は、明治7年に山浦の「通正寺」仮校舎として学校を開設し、後明治31年山浦小学校改築校舎落成式を挙行し、昭和22年に山浦中学校も開校し小学校と中学校の一貫した学校となりました。

昭和29年には、山浦小学校器楽合奏が大分県最優秀として滝廉太郎記念音楽祭に参加しています。昭和34年に、山浦中学校が閉校され上中学校と北部中学校へ進む様になりました。

昭和44年には、町内初めてのプールが完成されました。

このような多くの歴史を持った山浦小学校も児童数の急激な減少により、143年の長い歴史の幕を閉じることとなりました。

こうした山浦地区の人口減少の要因は若者の流出や産業の変化などさまざまな環境に左右されています。

若者の流出により、児童・生徒数の減少、そして、高齢者率の上昇が進み、核家族化が進行し、その結果、これまでに行われてきた共同作業や地域活動、伝統行事の実施が困難になるなど集落機能の低下も進んできています。

このような状況のなか地域が抱える共通の課題を解決するため、従来の集落の範囲を超えて、ともに助け合い、支え合う、一体的な地域づくりが必要となっています。

資料：山香町誌より

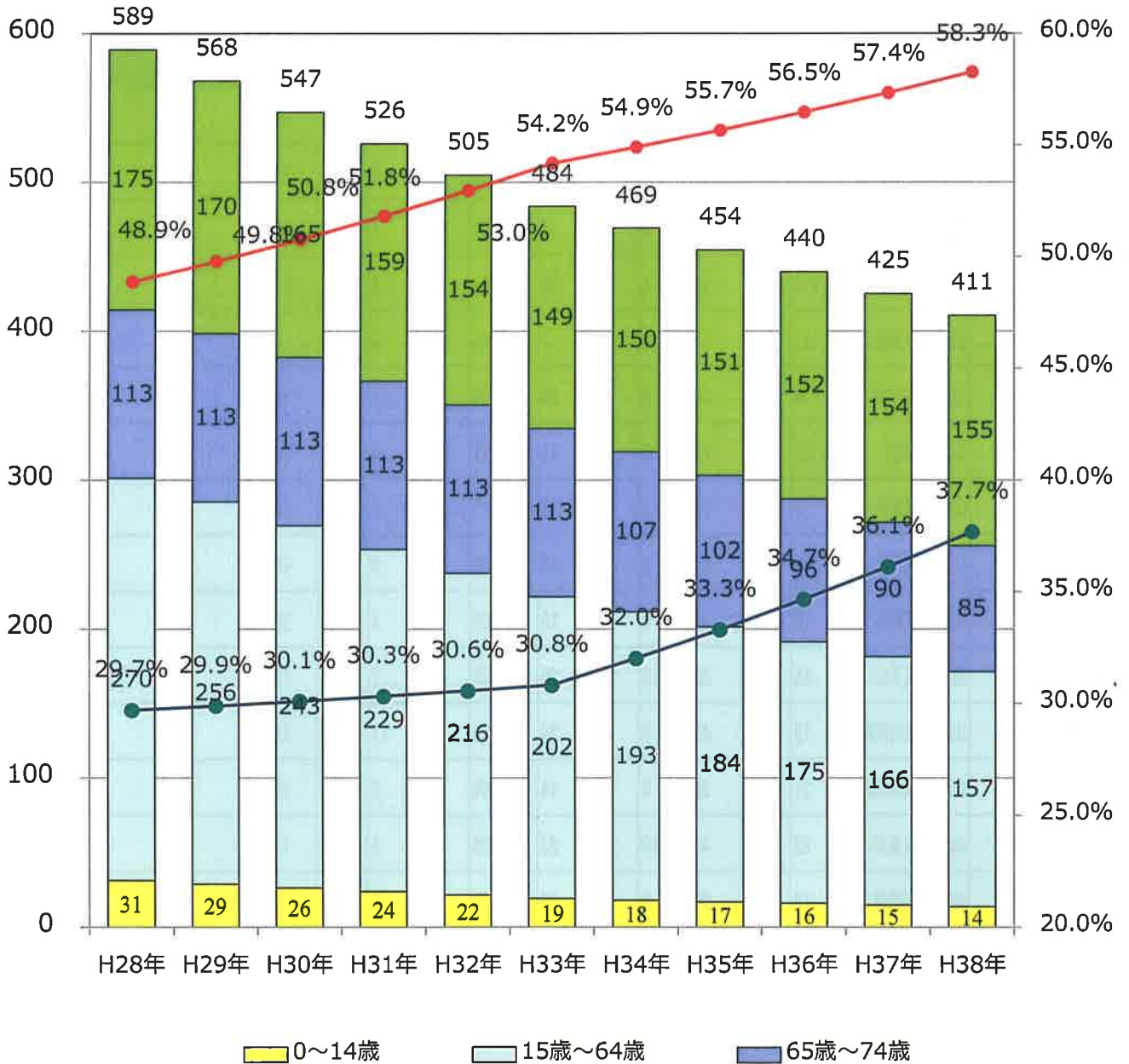
参考：山浦地区班別高齢化率調査

平成29年3月31日現在

旧市町村名	地区	行政区	総人口			65歳以上人口			65歳以上 人口割合	75歳以上人口			75歳以上 人口割合	A 独居人数 (65歳以上) 調査+28.4.1	B 夫婦のみ人数 (65歳以上) 調査+28.4.1	C 高齢者のみ人数 (65歳以上) 調査+28.4.1	A+B+C
			男	女	計	男	女	計		男	女	計					
山香	山浦	山浦北部(芋恵良)	2	5	7	1	5	6	85.7%	1	5	6	85.7%	4	0	0	4
山香	山浦	山浦北部(定野尾)	17	22	39	10	12	22	56.4%	5	9	14	35.9%	2	4	2	8
山香	山浦	山浦北部(原)	15	20	35	5	9	14	40.0%	1	7	8	22.9%	1	0	2	3
山香	山浦	山浦北部(西谷)	8	8	16	4	6	10	62.5%	2	4	6	37.5%	2	2	0	4
山香	山浦	山浦北部(飛松)	17	19	36	1	6	7	19.4%	0	3	3	8.3%	0	0	0	0
山香	山浦	山浦北部(浦篠)	16	33	49	5	19	24	49.0%	2	15	17	34.7%	7	6	0	13
山香	山浦	山浦西部(谷)	13	14	27	6	5	11	40.7%	5	4	9	33.3%	0	4	0	4
山香	山浦	山浦西部(本篠)	9	13	22	5	8	13	59.1%	3	8	11	50.0%	3	4	0	7
山香	山浦	山浦西部(川床)	13	14	27	6	9	15	55.6%	3	8	11	40.7%	3	2	0	5
山香	山浦	山浦南部(勢場)	16	11	27	9	6	15	55.6%	4	3	7	25.9%	3	2	0	5
山香	山浦	山浦南部(下山)	15	15	30	10	10	20	66.7%	5	7	12	40.0%	4	11	0	15
山香	山浦	山浦南部(石河野)	15	28	43	7	17	24	55.8%	3	11	14	32.6%	2	4	0	6
山香	山浦	山浦東部(出河内)	21	18	39	8	6	14	35.9%	4	2	6	15.4%	1	4	0	5
山香	山浦	山浦東部(長田)	22	25	47	10	13	23	48.9%	2	5	7	14.9%	3	2	2	7
山香	山浦	山浦東部(那留)	12	17	29	4	12	16	55.2%	3	8	11	37.9%	4	2	0	6
山香	山浦	山浦東部(楠原)	11	13	24	7	7	14	58.3%	3	5	8	33.3%	0	6	0	6
山香	山浦	山浦東部(吉野渡)	23	28	51	10	14	24	47.1%	6	10	16	31.4%	2	6	0	8
山香	山浦	山浦東部(速内)	9	12	21	2	2	4	19.0%	2	2	4	19.0%	1	0	0	1
山香	山浦	山浦東部(荒平)	4	2	6	3	2	5	83.3%	1	1	2	33.3%	2	0	0	2
山香	山浦	計	258	317	575	113	168	281	48.9%	55	117	172	29.9%	44	59	6	109

資料：杵築市市民課より

参考：今後の山浦地区人口の推移予測



今後の山浦地区人口推移を想定して見ますと、10年後には約411人の15%減となり高齢者も約49%から約58%と高くなって行きます。

資料：杵築市市民課より

3. 山浦地区まちづくり推進協議会活動

(1) 対象地区

4地区（山浦北部・山浦西部・山浦南部・山浦東部）

(2) 活動事業の概要

まちづくり推進協議会が主催する行事として、水辺公園で子供を中心にした交流事業である「水辺のコンサート」が行われています。

また、田植えの労をねぎらい互いの親睦を深める「のろよこいグラウンドゴルフ大会」を行っています。

お盆には地区で亡くなった方々を偲ぶ「地区合同慰霊祭の盆踊り」を行っています。

その他、運動会や各スポーツ大会及び長寿まつりなどのイベントの開催を通じ、地区住民の親睦と融和を図っています。

また、地域づくり推進部に属してる「山浦加勢隊」による、沿道の草刈りや地区グラウンドの清掃に加え、地域全体で取り組む合同環境整備事業として、道路清掃や空缶拾い、花いっぱい運動を実施し、地域の環境美化に努めた活動が行われています。

地域防災事業で災害時を想定した避難訓練の実施、女性部の地位向上に向けた研修や、伝統芸能の継承のため小学生に太鼓指導を行うなど、地域の特性を活かした事業に対し、高齢者から子供まで幅広く活動しています。

第2章 地域の課題や要望

1. 住民アンケートの結果と分析

(アンケート調査表抜粋)

国立社会保険障・人口問題研究所推計準拠値による杵築市の人口推計によると、平成37年(10年後)には27,117人、平成47年(20年後)には23,981人、平成57年(30年後)には20,978人と推計されています。

このような人口減少は、経済活動の停滞や住民生活に大変な不便をもたらす可能性があります。

これまで地域を支えてこられた方々が高齢者となり、地域の担い手は減少し続けており、これからも地域が続いていくためにはU I Jターンを含め、今の世代に続く次世代の定住が一層重要と考えています。

そこで、次世代の定住条件づくりも視野に入れながら、地域づくりを進めていくために、山浦地区地域計画を策定することになりました。

このアンケート調査は、多くの皆様の山浦地区に対する思い、地域の良さと課題などを探るためのものです。

本調査は、山浦地区に住民票をお持ちの平成28年4月1日現在で満15歳以上(高校生以上)の方全員(世帯主ではありません)を対象に、区長を通じて配布しております。

お忙しいとは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、山浦地区の振興発展のためにご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成29年1月
山浦地区町づくり推進協議会

(1) アンケート調査結果と分析

ア. アンケート調査結果

	全体数	回答数	回収率
山浦地区	580	430	74.1%
男性	257	193	75.1%
女性	323	223	69.0%

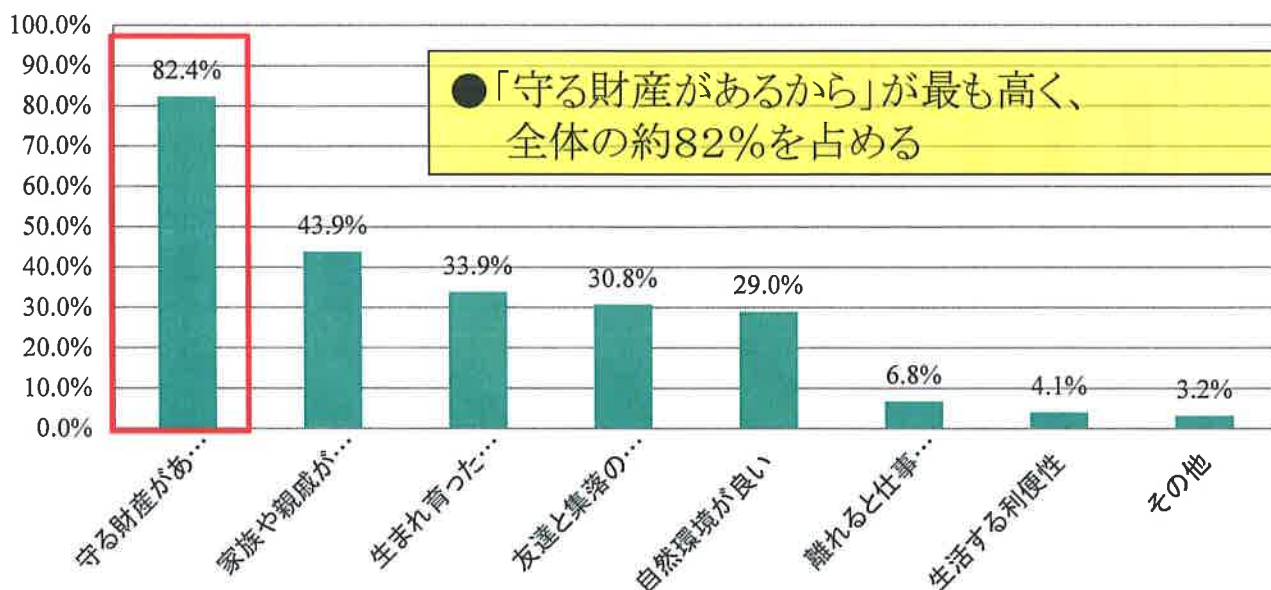
イ. 行政区別回答率

	山浦西部	山浦北部	山浦南部	山浦東部
回答率	14.4%	34.2%	18.6%	32.8%

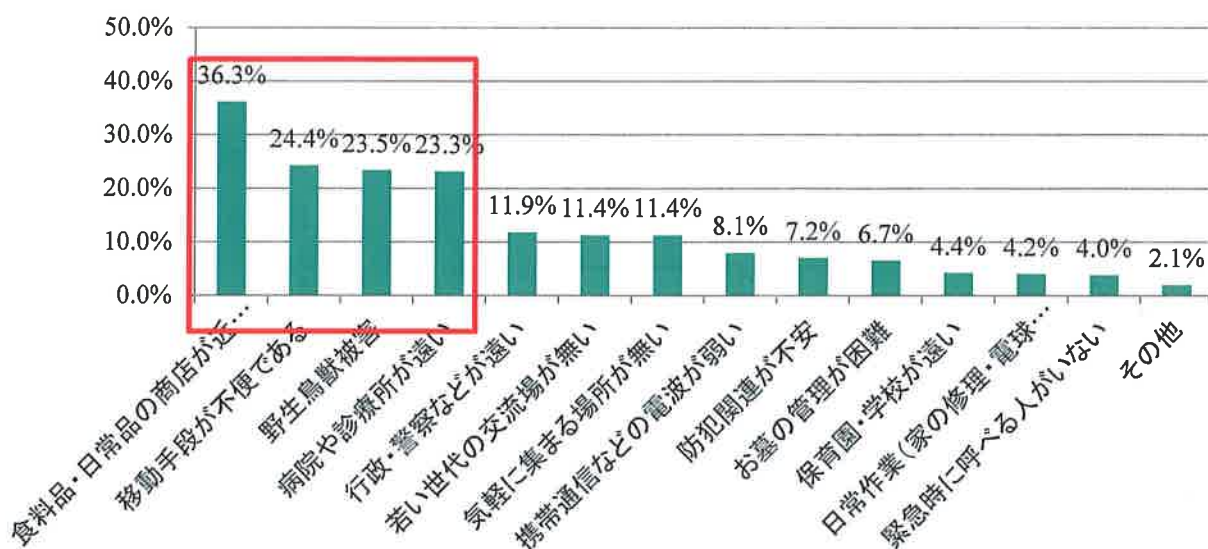
ウ. 年代別回答率

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
回答率	2.3%	4.0%	5.6%	7.7%	14.7%	24.4%	20.2%	20.5%

エ. 今後も住み続けたい理由

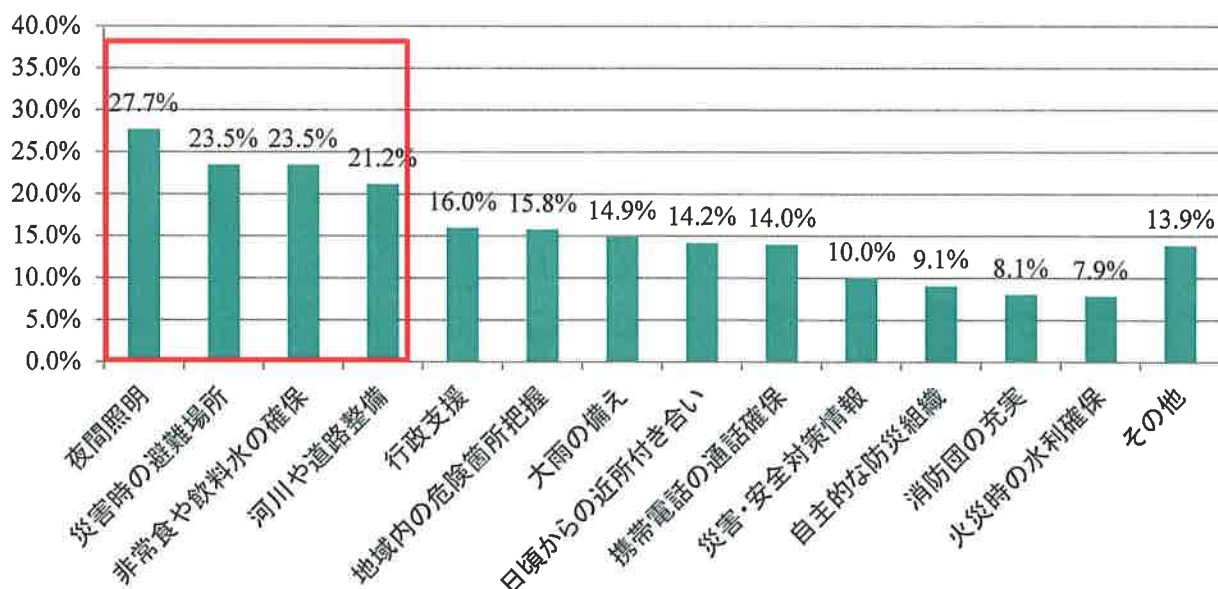


オ. 日々の暮らしの中で困っている内容



● 「食料品や日用品の商店が近くにない」ことを不安に思う割合が高く、それを行う手段に困っていることが分かる

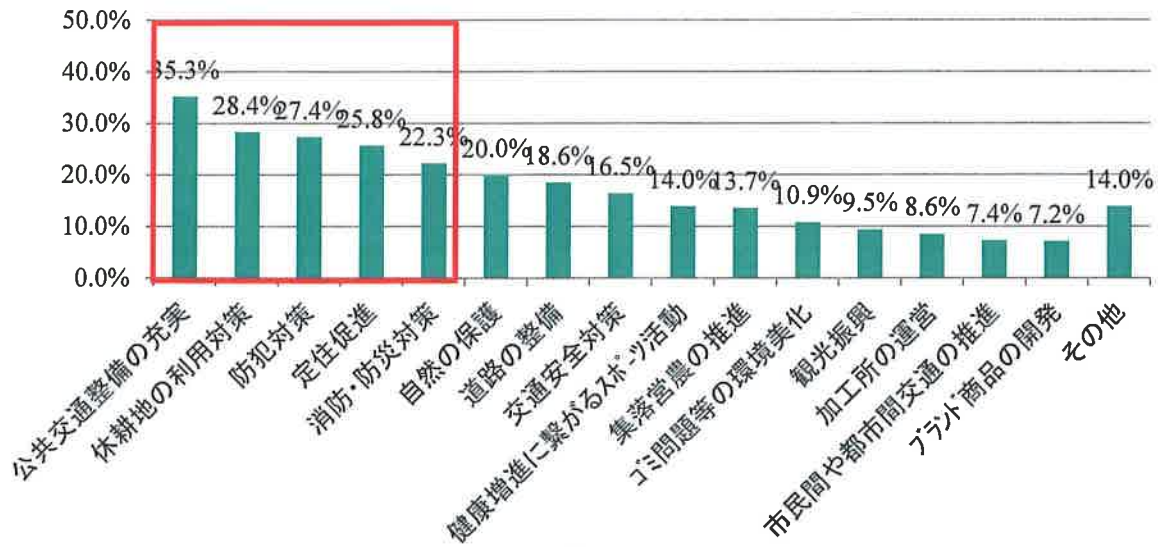
カ. 安全対策で不十分な内容



● 「夜間照明・災害時に関する内容」が地域で不十分と感じられることが伺える

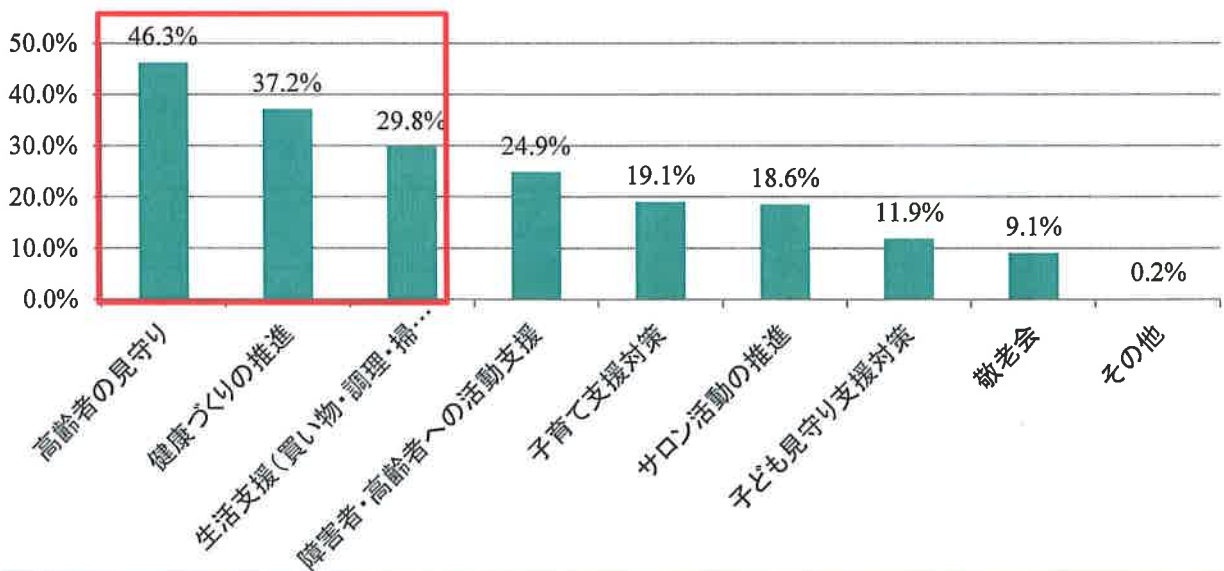
キ. 町づくり推進協議会への要望

①地域づくりに関して



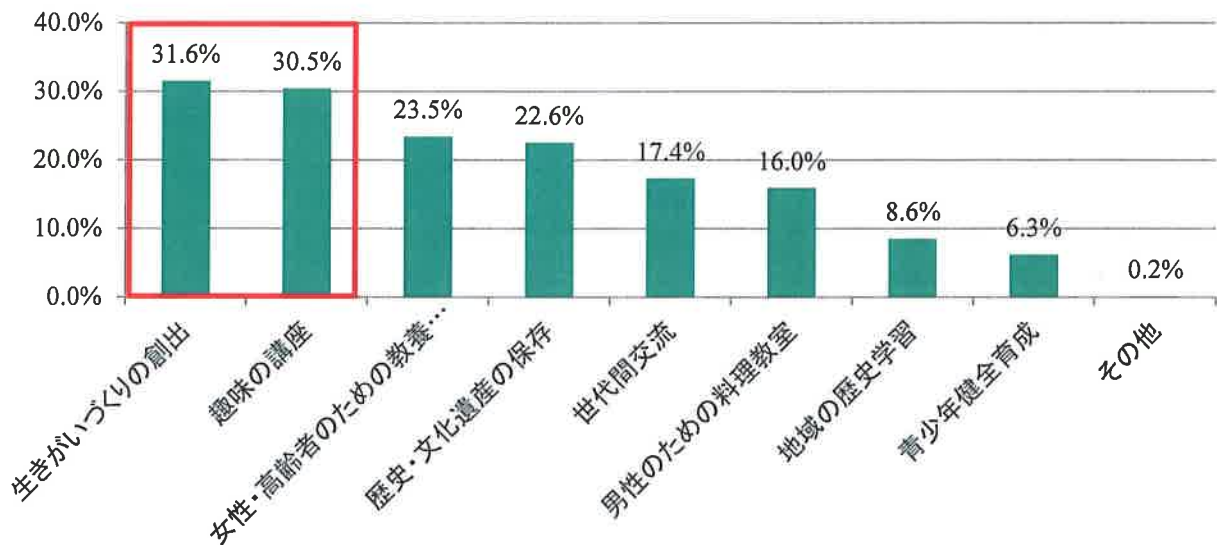
● 「公共交通の充実」や「休耕地の利用」「定住促進」など住民に望まれていることが十分に伺える

②地域福祉に関して



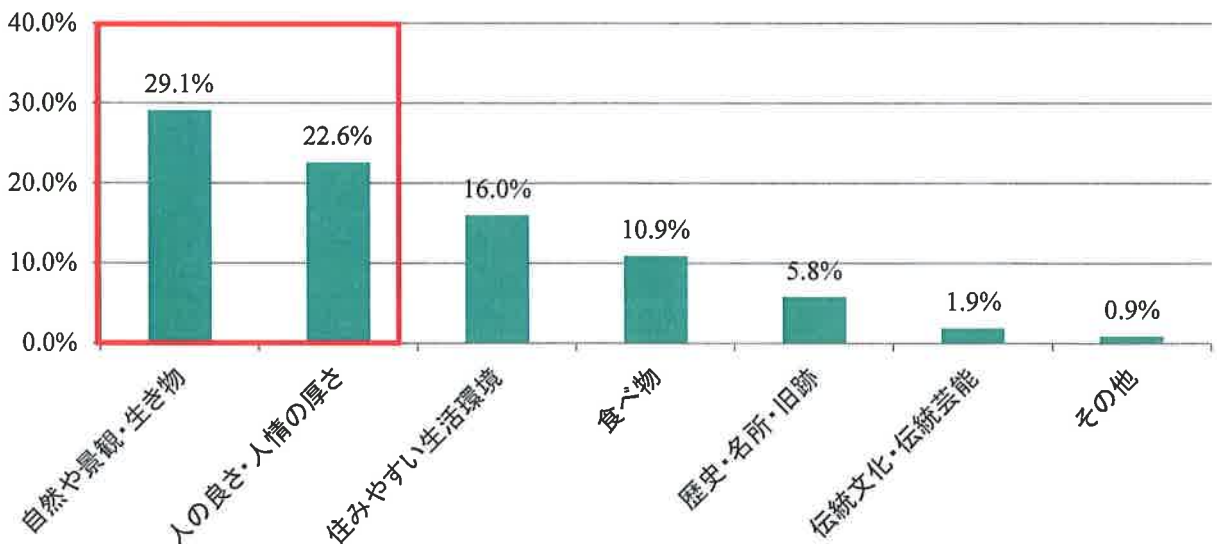
● 「高齢者の見守り」と「健康づくり」が特に高い割合となっており全体の約83%も占めてる

③生涯学習に関して



● 「生きがいつくりの創出」や「趣味の講座」などを望む割合が特に高いことが分かった

④山浦地区の「誇り」や「自慢」することに関して



● 「自然や景観及び生き物」を誇りに思う割合が高くなっており、且つ、人の良さ・人情の厚さも高いことが伺える

(2) アンケート調査結果に基づき問題点や課題・要望の洗い出し

ア. 問題点

- ・後継者がいない・分からない 44%
- ・町づくり推進協議会の組織理解
あまり良く分からない・わからない 69%
- ・町づくり推進協議会の活動や行事参加
参加していない・あまり参加していない 36%
- ・行政の活動や行事参加
参加していない・あまり参加していない 52%

イ. 課題(困っている)

- ・食料品や日用品の商店が近くにない 36%
- ・車や公共交通などの移動手段が不便 24%
- ・野生鳥獣の被害 24%
- ・病院や診療所がない・遠い 23%
- ・役場や警察及び消防などの行政が遠い 12%
- ・若い世代との交流がない 11%
- ・気軽に集まる場所がない 8%

ウ. 要望

- ・防犯灯の整備(夜間の照明など) 28%
- ・災害時の避難場所 24%
- ・非常食や飲料水の確保 24%
- ・河川や道路の整備(支障木など) 21%
- ・行政の支援 16%
- ・地域内の危険箇所の把握 16%
- ・大雨(台風)などの備え 15%
- ・農地管理 15%

(3) 要望の中から具体的な項目の洗い出し

エ. 地域づくりに関して

・公共交通の充実	35%
・休耕田の利用対策	28%
・防犯対策	27%
・定住促進	26%
・消防・防災対策	22%
・道路網の整備	19%
・交通安全対策	17%
・健康増進につながるスポーツ活動	14%
・集落営農の推進	14%
・環境美化・ゴミ問題など	11%

オ. 地域福祉に関して

・高齢者の見守り	46%
・健康づくり推進	37%
・生活支援（買い物・調理・掃除など）	30%
・高齢者の活動支援	25%
・子育て支援	19%
・サロン活動の推進	19%
・子ども見守り支援対策	12%

カ. 生涯学習

・生きがいづくり創出	32%
・趣味の講座	31%
・女性・高齢者のための教育講座	24%
・歴史・文化遺産の保護	23%
・世代間交流	17%
・男性のための調理教室	16%
・地域の歴史学習	9%

第3章 まちづくり推進協議会の基本方針・活動計画

1. 基本方針の目的

集落機能を維持することが困難になっている山浦地区において、全ての地域住民が参加する山浦地区まちづくり推進協議会が主体となり、杵築市や各種団体と協力・役割分担を明確にしながら、各種生活機能を集約・確保したり、地域資源を活用し、仕事・収入を確保するなど地域課題の解決に向けた取組みを持続的に行うことで、住み慣れた山浦地区で安心して暮らし続ける環境を確保する。

2. 基本方針の概要

(1) 地域計画の策定

平成29年1月に地域の15歳以上の住民を対象として実施した全住民アンケートの結果を基に、地域が持続していくため移住者の呼び込みを視野に入れ、将来の地域活動のシュミレーションを行う。

また、専門家がアンケートから見いだした論点からワークショップなどを開催し、山浦地区の地域性を把握する上で地域の良さや課題を探り、地域の将来ビジョンを盛り込み、「地域計画」の策定や組織の体制作りを行う。

(2) 高齢者健康増進活動

一人暮らしなどの高齢者の世帯が増加し、家に引きこもりがちになり、地域で孤立してしまう恐れがある。高齢者の誰もが気軽に立ち寄り、お茶を飲んだり食事をしながらおしゃべりができる、居場所づくりとして「高齢者サロン・デイサービス」を実施する。

この事業を行うことより、高齢者の孤立防止や介護予防につなげることはもとより、高齢者の社会貢献活動の促進や生きがいをづくりと将来的にはシェアハウスの場所とする。

(3) 買い物弱者支援体制の確立

株式会社ローソンが、買い物弱者支援による地域活性化連絡会（大分県社会福祉協議会・生活協同組合コープおおいた株式会社（ローソン））の活動の一環として、移動販売を実施する。

杵築市は、包括連絡協定を結び、見守りや災害時の物資支援高齢者雇用、健康づくりに関することなど、様々な面で協力体制を構築し、包括的に地域支援を行う。販売場所まで行けない高齢者に対し、商品の注文・配達を行い見守りを兼ねた買い物弱者支援体制を構築する。

(4) 生活支援体制の強化

高齢者の介護・生活支援の担い手不足が今後予想され、中高齢者の在宅支援を支えるためボランティアなどの多様な事業主体と協力し、草刈りや買い物、掃除などの生活支援、サロンと組み合わせた介護サービスの提供体制の構築を行う。（草刈り・買い物・食事など）

(5) 地域資源活用事業の構築

山浦地域の特色として、自然の森林をそのまま活かしつつ、道路沿いに紅葉街道、雑木林の間伐を行い竹の子や山菜等を植栽し美林化し、更に遊歩道などの散策環境を整備する。

専門家のアドバイスを受け、地域資源の活用として、河川に出来ている「石菖（せきしょう）」と「ホタル」が飛び交い「きれいな水」から生産している「山浦米のブランド化」を行い事業活動へ展開にする。

それにより、山浦地区の魅力を向上させ、商品のブランド力向上と継続的な運営を行うことができるようになることを地域ビジョンに挙げ、組織運営と事業の安定化とともに地域経済循環を促すための計画策定を行う。

(6) 小規模集落対策

小規模多機能自治を推進している島根県雲南市に視察を行った。

雲南市では廃校となった小学校を大学との連携により交流センターとして活用して、宿泊も可能とした拠点施設を運営したり、買い物支援として売店コーナーの整備やサロン、送迎サービスなど地区で活発的に活動をしている事例など参考にし、山浦地区の今後に活かして行く。

(7) 自主防災活動の強化

要支援者などの見守りのため各地域で緊急時に支援が必要な方を把握し、独自に連絡網を構築していきます。また、緊急時に備え、定期的に情報収集訓練を行い、併せて防災備品の管理を行う。

(8) 計画期間

7年間（平成30年度から平成36年度まで）

3. 活動計画

(1) 地域福祉・防災部会

ア 福祉・防災活動の目的

- ・住民が心豊に暮らし続ける地域となるように、健康長寿で近隣との交流や支え合う気持ちで生活ができる環境を推進する。
- ・日頃から防災について十分な意識と一定の知識・技能を持ち地域で防災訓練を行って、いざというときに協力して対策にあたることのできるような体制づくりを行う。

①在宅支援

- ・自宅の草刈り・片付け・掃除及び家の簡単な修理
- ・センターで随時受付を行い、予め登録されている支援対応者に連絡し、支援日時の調整をして対応する。
- ・移動販売までの買い物支援や見守り
- ・送迎や買い物代行を行う。(センター及び班支援登録者)
- ・定期受診などの病院送迎
- ・センターで受付を行いタクシー会社と調整し対応する。

②生涯学習

- ・健康教室 軽い体操や脳トレーニング及びジョギング・散歩等で、料理教室の食事後に兼ねて開催する。
- ・料理教室 メニューは講師が立案。(スキルアップを目指す)
- ・手芸/生け花/パソコン教室 講師がプログラムを作成し進める。
- ・いきいきサロン (//)

③趣味の会

- ・グラウンドゴルフ 現状の活動を継続する。(毎週2回の活動)
- ・囲碁・将棋 教室の一室で実施する。
- ・絵画・絵手紙 (//)
- ・トランプ・花札・マージャン・カラオケ (//)

④シェアハウスの運用

- ・独居高齢者等の夜間の不安解消や共同生活による生きがいの創出により日中の生活に活力を見出す。
- ・災害時の安心・安全を確保するため、早期の避難場所として利用する。

(2) 地域間交流・社会教育

ア 地域間交流の取り組み目的

- ・山浦地区の活性化策のひとつとして、地域内外からの交流を図る目的に小学校の跡地に「宿泊施設」を設ける。
- ・豊かな人生を送ることが出来る様、生きがいづくりや知識習得を目的に、公民館事業として生涯学習を行う。

①宿泊施設の運営

1) 利用目的及び対象

- ・児童養護施設などの児童を対象に、農業体験時の宿泊。
(杵築市児童等自立支援就農チャレンジ事業参考)
- ・一般向け農業体験や田舎体験及び移住体験。
- ・学生やスポーツクラブなどの合宿。(キャンプ)
- ・里帰りをした人の受入施設やシェアハウス。
- ・登山や観光など。

イ 空き家調査と移住パッケージ空き施設事業

- ・山浦地区で増加傾向にある空き家をまちづくり推進協議会が自主に調査を行い、移住ができる生活環境を事前に進め、移住者の受入れをしながら、人口減少や過疎化を抑制する。

ウ 社会教育の取り組み(平和公園のシンボル化)

- ・戦没者115名の御霊を祭るとともに、地区内の有志や遺族が恒久的平和を願い建立された施設を活用し地区住民全体で戦争の悲惨さや平和の尊さを、後世に語り継ぐ責務があると考えます。
- ・山浦遺族会と共催し、年一回は地区の行事として戦没者の冥福と命の尊厳及び恒久的平和を願う日を定める。

エ グリーンツーリズム

- ・自然や防林業、農村生活・文化の体験学習をする環境整備を行う。地元の人たちが自分の生活を守り、地域が持つ耕作地を有効に利用して、その事業により収益が地域に落ちる仕組み作りを行う。また、景観や伝統が残っている状態を郷土資産として守る。

(3) 産業振興

ア 産業へ取り組む目的

- ・山浦地区に地域外から「人」を呼び込むための整備が必要と考える。
(テーマ「癒しの空間づくり」)
- ・既存の公園や森林を活かし、再整備と維持管理が出来、地区住民全体で運用が図れる体制の再構築。
- ・後継者不足や圃場環境の悪条件から、農地の荒廃や未利用用地が急増し、集落の存続に大きな影響が生じている。
これらを解消するため「個人完結の農業」から脱却し、山浦地区全体で農地の荒廃防止や利活用を検討する。

①山浦地区「一農場化」を実現するため、受け皿となる法人組織を立ち上げる。

- ・農地の利活用を進めるため土地利用型、集約型（園芸作物）山間地型等に農地を区別し活用を図る。
- ・農産物の6次産業化、ネット販売や直販所による販売割合を増やすことより、利益率を高める。
- ・他面的事業に取り組むことより、年間約1千万円（水田100ha、うち中山間6割）の助成金を有効活用する。
- ・地区内外の公共事業などの受託（既存組織の一本化）を行うことにより、収入の安定が図られる。
- ・農業研修生、体験希望者等を受入ることにより、後継者の育成に繋げる。

②水辺公園を中心とする再整備

- ア 山蔵川の管理道路を整備・舗装
 - ・八幡宮から谷地区の河川敷に管理道路を舗装・整備し、四季折々の草花を植栽する。（年間を通じて散策ができ、ベンチや東屋などで休憩）
- イ 現状の公園展望台を拡張整備
 - ・拡張することで、由布山・鶴見山の眺望ができ、紅葉やさくらなど観賞スポットにする。
- ウ 水辺の楽校公園の整備
 - ・シャクナゲ園をきれいにする。（杉や高木を全伐）
 - ・西側斜面に花木などを植栽し、県道からの景観整備をする。
 - ・南側の裏山を一部伐採し眺望を良くする。
 - ・裏山の竹林一部を間伐し、観光タケノコ園など整備をする。
- エ 公民館の東側の整備
 - ・山林の除伐・間伐を行い、美林化し山林間に遊歩道を設置する。合わせ河川敷と散策コースを整備する。

③山浦周辺の環境整備

- ア 湧水やホタルの飛び交う場所の環境整備
 - ・山浦地区は、八坂川・駅館川への源流であることから、自然を活かした整備・管理をしていく。
- イ 紅葉街道を造る
 - ・原地区から西谷地区入り口まで街道沿い。
 - ・飛松地区から川床地区まで街道沿い。
 - ・川床地区から石河野地区までの街道沿い。
 - ・石河野地区から吉野渡地区までの街道沿い。
 - ・トンネル裏から楠原地区街道沿い。
- ウ さくら並木を造る
 - ・楠木大池周辺にさくら並木の遊歩道を作る。

④加工食品・製造・販売

ア 薬草を使って山浦の特産にする

- ・山浦地区にある石風呂（薬草風呂）を真似て新たな施設を設置する。
- ・薬草「石菖」（せきしょう）の植栽で、山浦の特色を出せる運用、この「石菖」（せきしょう）」を活用して芳香剤など作る。

イ 地元の食材を使った加工品を作る

- ・農家で作ったものの販売ルート（直販所等）を確立。
- ・加工品や農家の作ったものを食材提供。（宿泊者への食事）

ウ 山浦の特産物として「米」の取り扱いを強化する

- ・山浦地区のお米を産物として、提供できる仕組みを構築して、各イベントで使用してもらう。
- ・賛助会員を募る/品種を選定/食選/食味計で合格米を条件として、ブランド化を図る。（山浦の写真など掲載し地域の特色を出す）

山浦地区住民主体のまちづくり活動計画

項目	活動内容	具体的な内容	平成30年度				平成31年度		平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
			4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～9月	10月～3月					
地域福祉・防災	大日程		山浦小学校跡地改修設計	山浦小学校跡地改修工事-1	山浦小学校跡地改修工事-2	運用開始							
	大分大学生支援		月1回研修と進捗フォロー			毎月1回		状況に応じて3ヶ月1回検討		状況に応じて検討・企画する			
	東京農業大学教授支援		3ヶ月毎の計画・進捗フォロー										
	山浦地区まちづくり推進協議会		組織再編・規定見直し	任意法人組合・会社設立			設立後の総会・運営	総会・運営	総会・運営	総会・運営	総会・運営	総会・運営	
	1 在宅支援	①買い物支援 ②自宅の草刈り・掃除・修理 ③病院の送迎 ④定期的な見守り	・移動販売に戸別対応(有料) ・事前予約(担当派遣・女性活動・有料) ・定期受信/通院への送迎(有料) ・民生委員/福祉委員/近隣者と連携	移動販売車の運用	移動販売に地元産物販売を検討・導								
2 生涯学習	①各教室を開催(健康・料理・手芸・生け花・PC) ②いきいきサロン	・軽い健康体操/脳トレ/料理/宅配(月1回) ・コンビニの設置 ・現状の運用を利用/検討	現状のサロン活動継続から運用や改善など支援				趣味の会企画・イベント活動などの運営状況に応じて見直ししながら、生涯学習とした行事を協議運営する						
3 趣味の会	①ランドゴルフ ②囲碁・将棋 ③絵画・絵手紙 ④トランプ・花札・マージャン・カラオケ ⑤ジョギング・ウォーキング・散歩	・現状の運用を利用/検討(週2回実地中) ・週一回計画 ・週一回計画 ・週一回計画 ・健康/地域周辺を利用	現状のランドゴルフ活動・運営を継続しイベント開催にて協賛活動推進		趣味の会企画・イベント活動								
4 子育て支援設備	①児童の放課後・休日見守り ②保育園の教室・子供食堂 ③高齢者と子供のふれ合い	・宿題を一緒にやる/ゲーム/軽スポーツ ・放課後のおやつ作り/一緒に食べ遊ぶ ・花壇や庭園の手入れ/ランドゴルフなど	公民館活動継続			校舎跡地調理場利用							
5 地域の防災拠点避難設備	①災害時の緊急炊き出し ②防災力の強化 ③シェアハウスの整備	・緊急時の食料確保/炊き出しの訓練 ・過去の災害振り返り学習(ビデオ) (東北大地震・阪神・熊本/大分地震など) ・防災訓練/人工呼吸AED/地震水害対策回復訓練など		防災訓練計画		防災士養成		防災訓練計画	防災訓練計画	防災訓練計画	防災訓練計画	防災訓練計画	防災訓練計画
地域間交流・教育	1 学校跡地を民泊施設	①校舎の見直しレイアウト(案)(別紙参照) ②食堂の設置 ③宿泊者の利用推進 ④太陽光発電による熱電源利用	・合宿・里帰り・キャンプ(夜間利用が可能)(宿泊規定など別途作成検討) ・田舎・農業体験学習 ・移住体験・観光・登山など ・移住パッケージ空き施設事業への取り組み ・児童等の自立支援就農チャレンジ事業 ・料理教室を通じて、若者・高齢者の交流 ・一人暮らしの食事提供 ・カフェの場で住民や高齢者の交流の場 ・シェアハウスの運用 ・山浦郷ウォーキングの開催 ・お風呂や調理室などの熱源利用(節電対応) ・客寄せの一つとする ・グリーンツーリズム	・宿泊や内容などの規程など作成し事業予算検討	空き施設調査・所有者と協議・改修・空き家バンク登録	料理教室や交流施設を開設に伴う規定準備や委員会募集	料理教室に必要な備品や準備	運用開始・見直し	各料理イベント企画開催	各料理イベント企画開催	各料理イベント企画開催	各料理イベント企画開催	
			ウォーキングのコース整備・開催(年1回程度)	ウォーキングの開催(年1回程度)	ウォーキング企画	ウォーキング企画	ウォーキング企画	ウォーキング企画	ウォーキング企画	ウォーキング企画	ウォーキング企画	ウォーキング企画	
			グリーンツーリズムの運用・仕組み作り	グリーンツーリズムの運用									
産業振興	1 山浦公民館中心とする周辺を再整備心と体の癒しの場作り	①山蔵川沿い河川敷の管理・整備 ②公園の展望台を拡張 ③現状の公園整備 ④平和公園の管理・整備	・底宮～谷地区の河川敷に管理道整備(ベンチや東屋などを設置) ・山蔵川に四季折々の草花を植栽 ・現状の位置より約3m程川より拡張(由布/鶴見山の眺望と紅葉やさくらの観賞) ・シャクナゲ園をきれい(杉・高木を全伐) ・西側斜面に花木植栽と雑木間伐 ・竹林の間伐から「タケノコ園」として整備(その他山菜など植栽) ・北東側を除伐/間伐し遊歩道設置	・管理道路を舗装整備/ベンチの設置検討/協議	公園整備計画と事業予算算出(四季の草花選定)	四季の草花植栽計画	草花植栽計画2	草花植栽計画3	草花植栽計画4	草花植栽計画5	草花植栽計画6		
	2 山浦周辺を観光景観整備	①もみじ街道を構築 ②森林意のある散策整備	・原地区～西谷地区道路 ・飛松地区～川床地区道路 ・川床地区～石河野地区道路 ・石河野地区～吉野渡地区道路 ・トンネル裏～楠原地区道路 ・外周を遊歩道整備とさくら並木の植栽	関係者や地権者と協議し事業予算を算出	紅葉街道整備計		除伐計画/植栽	除伐計画/植栽1	除伐計画/植栽2	除伐計画/植栽3	除伐計画/植栽4	除伐計画/植栽5	
	3 加工食品・販売・直販	①加工場・販売仕組み体制構築 ②直販所の整備	・宿泊者への食材提供 ・交流の場への食事提供 ・農家から買取り加工/販売ルート確立 ・山浦の減反田で産物「お米」のブランド化	加工食材や加工方法の仕組みを計画/作成し事業予算など算出 ・薬草(セキショウ)の加工方法や植栽場所など検討									
	4 跡地に「薬草風呂」施設設置	①石菘(せきしょう)を利用し観光名所にする	・農家の協力で薬草「せきしょう」を植栽 ・産物として販売(芳香剤)/食事提供 ・セキショウ/湧水/ホテルなどの場所把握	石菘(せきしょう)の植栽など仕組み作り(栽培のコヨミなど作成・管理)		湧水域/石菘(せきしょう)の場所調査から山浦特産品を発掘(芳香剤など)							
	5 農業体験受入体制調査	①支援農業受入農家確保	・自立支援体験学習の仕組み構築	受入農家/仕組み・体制作り		農業体験学習や就業支援活動		加工方法や販売状況に応じて見直し等を行い、新規創出活動など図る ・農業体験学習や就業支援活動の対応に応じて見直し/企画する					

第4章 まちづくり計画の実現を目指して

住民意見が集約された「山浦地区まちづくり計画」を実現していくためには、まちづくりの方向性を共有するとともに、みんなで話し合い、決定できる仕組みが必要となります。

1. 住民主体のまちづくりを行います

この計画書は、私たちが暮らす山浦地区を、よりよい地域にすることを目指して策定したものです。住民や地域と行政がそれぞれの連携を取ることが重要です。

そのためには、住民自らが考え行動をしようとする意識と既存の事業活動をみんなで共有化し、無理をせずに展開しながら活動の輪広げて輝く地域にしていきます。

2. 協働のまちづくりを行います

まちづくりの主人公は地域住民であります。住民ができることは自主的に取り組みながら、行政ができることは行政が役割を担うことが大切です。役割分担を明確にしながら、互いを尊重し、連携して活動を進めて行く協働のまちづくりを進めて行きます。

3. 具体的な実施計画書を作成します

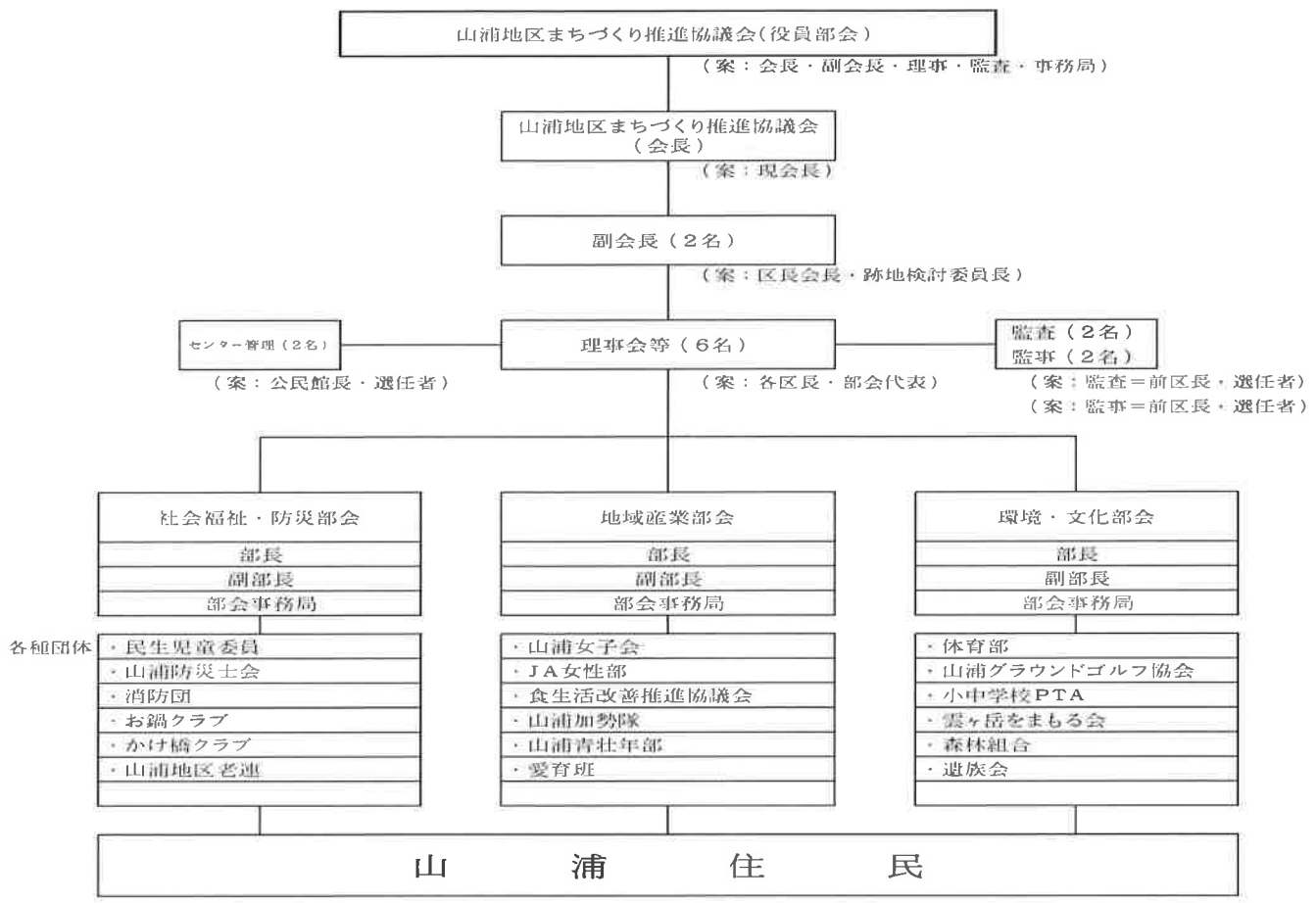
本計画書では、基本方針に沿って活動内容を定めています。

この活動内容を具体的な活動に繋げていくためには、実施年度毎に具体的な実施計画を作成する。多くの意見を反映させるために、まずは、専門部会で実施計画を協議し、最終的には役員会で総合調整を行い、事業や予算を決定する仕組みを確立させます。

4. 事業計画の進捗管理体制を確立します

この計画は、7年の長期間に及ぶものであり、多くの地域住民が参画し計画の実現に向けて進められるべきものです。よって、今後は計画(P)・実施(D)・点検(C)・改善(A)と計画実現のサイクルを導入し、計画や結果及び事業の進捗などを反映させる様に監査を持ちながらより精度の高いまちづくりを進めて行きます。

山浦地区まちづくり推進協議会組織体制図



各組団体

役 職	山 浦 住 民	役 職	山 浦 住 民
会長	山浦地区まちづくり推進協議会	委員	茅恵良自治公民館長
副会長	区長会長	"	定野尾 "
"	山浦跡地検討委員長	"	原 "
理事	北部区長	"	西谷 "
"	西部区長	"	飛松 "
"	南部区長	"	浦篠 "
"	東部区長	"	谷 "
"	社会福祉・防災部長	"	本篠 "
"	地域産業部会部長	"	川床 "
"	環境・文化部部长	"	勢場 "
事務局	公民館長	"	下山 "
"	選任員	"	石河野 "
監査	前区長	"	出河内 "
"	選任員	"	長田 "
監事	前区長	"	那留 "
"	選任員	"	楠原 "
		"	吉野渡 "
		"	速内 "
		"	荒平 "
		"	山浦保育園代表
		"	交通指導員代表
		"	女子会代表
		"	山浦老人クラブ代表
		"	J A 女性部代表
		"	上駐在所警察官
		"	民生委員代表
		"	消防団代表
		"	防災士代表
		"	市役所地区担当
		"	農業委員代表

参考資料

山浦小学校跡地検討委員会
13回の会合を進める
(各部会は、毎週の検討会を協議して全体会へ持ち寄る)

- ・福祉/防災部会
- ・地域間交流/社会教育部会
- ・産業振興部会



大分大学の学生と山浦地区ワークショップを開催
開催は、5月より 大学生 5名 山浦地区 各部会長等6名



東京農業大学教授と一緒に山浦地区ワークショップを開催・東京農業大学教授 3名・市役所 2名・山浦地区 8名



